

Pictet Market Flash

ドイツ経済：足元の指標は強弱交錯

2015年6月のドイツの経済指標は強弱まちまちとなりました。鉱工業生産が予想外の減少となった一方、製造業受注は外需の増加を背景に急増し、ドイツ経済の先行きを期待させるものとなりました。また、6月の輸入が輸出以上に減少したことから、貿易収支は過去最高額を更新しました。

6月の鉱工業生産指数：市場予想に及ばず

2015年6月のドイツ鉱工業生産指数（建設を含む）は前月比-1.4%となり、市場予想の同+0.3%を大きく下回って、月次ベースでは、2014年8月以来、最大の低下率を記録しました。一方、5月改定値は同+0.2%と、速報値から0.2ポイント上方修正されました（[図表1参照](#)）。

当指数を構成するサブ指数では、製造業指数が前月比-1.3%、建設指数が同-4.5%（3か月連続の低下）といずれも低下する一方、エネルギー指数は同+2.3%と好調で、前月の低下分をほぼ相殺しました。

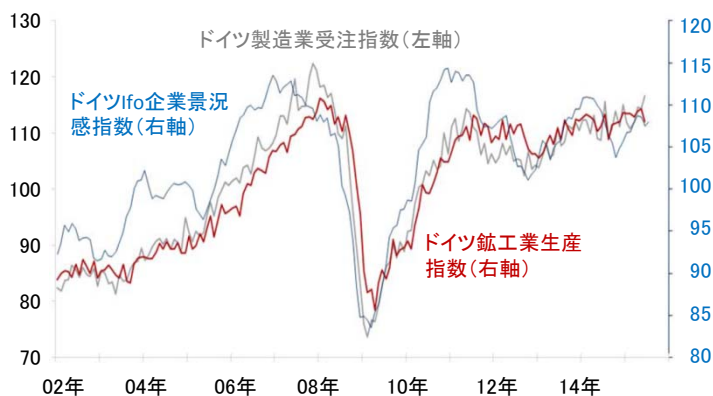
この結果、2015年4-6月期の鉱工業生産指数は前期比+0.1%に留まり、2014年10-12月期の同+0.8%、2015年1-3月期の同+0.5%をともに下回りました。

6月の製造業受注：外需の寄与により急増

2015年6月のドイツ製造業受注指数は前月比+2.0%となり、市場予想の同+0.3%を大きく上回りました。一方、5月改定値は同-0.3%と、速報値から0.1%下方修正されました。（月次の変動の大きい輸送機器等の項目を除いた）6月のコア新規受注サブ指数は同-1.1%と低下しましたが、4月の同+3.4%、5月の同+1.9%と、2か月連続の大幅上昇の反動の影響が出たものと考えます。この結果、2015年4-6月期の製造業受注指数は前期比+3.1%となり、1-3月期の落ち込み分（前期比-1.5%）を帳消しにしました。4-6月期のコア製造業受注指数も、前期比+2.9%と好調でした。

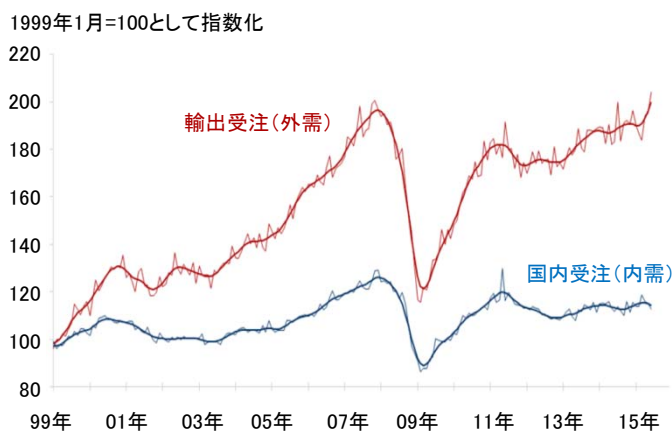
2015年6月の製造業受注指数の地域別内訳では、輸出受注（外需）が前月比+4.8%となり、指数をけん引しました（[図表2参照](#)）。また、4-6月期については、2014年10-12月期、2015年1-3月期と2四半期連続で期待外れに終わったのとは対照的に、改善が際立ちました。6月の外需の内訳を見ると、ユーロ圏からの受注が前月比+2.3%、非ユーロ圏からの受注が同+6.3%と、いずれも好調でした。

図表1：ドイツ鉱工業生産指数、製造業受注指数
Ifo企業景況感指数の推移
（月次、期間：2002年1月～2015年6月）



出所：ピクテグループ

図表2：ドイツ製造業受注指数の国内外別推移
（月次、期間：1999年1月～2015年6月）



出所：ピクテグループ

<次ページに続きます>

ドイツ貿易収支: 過去最大の黒字

2015年6月のドイツの輸出は前月比-1.0%となり、同-0.3%と見ていた市場予想に届きませんでした。また、6月の輸入は同-0.5%となり、輸出同様、市場予想を下回りました。この結果、6月の貿易収支は240億ユーロとなり、5月の195億ユーロを上回って過去最高額を更新しました。

4-6月期の輸出は前期比+3.6%と1-3月期の同+0.6%を大きく上回り、2011年1-3月期以来最大の伸びを記録したことが注目されます。

ドイツ経済: 今後の見通し

2015年6月のドイツ鉱工業生産指数は、国内経済への寄与度が低位に留まる状況を示唆するものでした。しかし一方で、新興国経済が減速基調を脱せず、先進国経済も未だ回復途上という環境にもかかわらず、好調な外需によって6月のドイツ製造業受注指数が大幅上昇したことは、明るい材料となりました。

当面の間、強い外需がドイツ製造業を下支えすると見られることから、ドイツ経済の見通しは明るいと考えます。

※将来の市場環境の変動等により、当資料記載の内容が変更される場合があります。

ピクテのウェブサイト 最新情報にキャッチアップ！

ピクテ

検索

<http://www.pictet.co.jp>

Market Flash マーケット関連ニュース

ヨーロッパから見た世界のマーケット関連情報
ピクテならではの分析はこちら

MF



<http://www.pictet.co.jp/archives/category/news/markets>

Today's Headline 今日のヘッドライン

今、マーケットで注目の話題をプロの視点でレポート
平日夕方 毎日配信中！

TH



<http://www.pictet.co.jp/archives/category/news/headline>

Fund Watch ファンド関連ニュース

ファンドの現状と日々変動するマーケットの関係を
詳しく、解りやすく解説します

FW



<http://www.pictet.co.jp/archives/category/news/fundinfo>

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。